

|      |          |      |    |      |      |      |      |
|------|----------|------|----|------|------|------|------|
| 科目名  | 実践仏教 [院] |      |    |      |      | 単位   | 2.0  |
| 担当教員 | 尾畑 文正    |      |    |      |      |      |      |
| 授業形態 | 講義       | 開講期間 | 前期 | 配当年次 | 1, 2 | 授業番号 | 8004 |

●授業のテーマ

仏教の社会的実践の研究

●到達目標

仏教を机上の学問としないで実践的に捉えていく思考方法になれる。それについてはあらゆる社会問題に目を向けるようになる。

●学習内容(授業概要)

仏教の有する根源的な批判精神に立脚して平和、人権、環境、福祉等の現実問題を課題にした仏教の社会的実践に関する理論的研究を行う。さらにその理論的研究を土台にして仏教の社会的実践を具体的な課題別の現場で実習し、仏教の理念に立つ社会的貢献の方途を学ぶ。

●学習内容(授業計画)

《前期》

1. なぜ実践仏教か
2. 社会に関わる仏教と社会に関わらない仏教
3. 仏教登場の歴史的意義ーカウンターカルチャーとして仏教ー
4. 仏伝にみる仏教の社会性(出家と成道)
5. 初期仏教経典にみる仏教の社会性(阿含経典)
6. 大乘仏典にみる仏教の社会性(維摩経)
7. 大乘仏典にみる仏教の社会性(涅槃経)
8. アンベードカルに学ぶ(1)
9. アンベードカルに学ぶ(2)
10. 浄土教仏教の社会性(無量寿経)
11. 浄土教仏教の社会性(観無量寿経)
12. 親鸞浄土教にみる社会との関わりの問題(出家)
13. 親鸞浄土教にみる社会との関わりの問題(修道)
14. 親鸞浄土教にみる社会との関わりの問題(邂逅)
15. 親鸞浄土教にみる社会との関わりの問題(流罪)

《後期》

1. 実践仏教の具体的表現
2. テイク・ナット・ハンにみる仏教の社会性(釈一行の生涯)
3. テイク・ナット・ハンにみる仏教の社会性(行動する仏教)
4. 日本における実践仏教の歴史(序)
5. 高木顕明論(大逆事件)
6. 高木顕明論(余が社会主義)
7. 植木徹誠論(その生涯)
8. 植木徹誠論(その課題)
9. 竹中彰元(戦争は最大の罪悪である)
10. 戦時教学(真俗二諦論)
11. 戦時教学(背景としての天皇制国家)

12. 戦時教学（その実態）
13. 行動する仏教への試行（差別問題を通して）
14. 行動する仏教への試行（靖国問題を通して）
15. 行動する仏教への試行（原発問題を通して）

●準備学習・事後学習の内容

準備学習はその都度に提示する問題について、あらかじめ調べておくこと。事後学習は授業時に指示する参考図書、参考資料に目を通しておくこと。

●成績評価方法・基準

あらかじめ提起する課題に乗ってのレポート提出をもって成績評価とする。レポート試験（100%）

●テキスト（必携）

その都度の授業において資料をプリントして配布する。特定の書籍はない。

●参考文献／その他

問題が多義にわたるので、授業時に随時に指示する。

●履修上の注意

毎日の生活の中で起きてくる社会的出来事を宗教的関心の中で読み解く努力をもってもらいたい。